水産多面的機能強化対策事業先進地視察（兵庫県）

10月29日、30日の2日間、補助金の効果的な活用方法や事業運営の参考とするため、兵庫県漁業協同組合連合会及び兵庫県庁を訪問し、先進地視察を実施した。

初めに訪問した兵庫県漁連では、補助金の活用状況や具体的な事業の取組について説明を受け、事業の実施体制や運営上の工夫などについて理解を深めた。特に、限られた予算を有効に活用しながら、地域の実情に応じた事業を展開している点は、今後の活動を検討するうえで大変参考となった。
また、意見交換会では、宮崎県が抱える問題や補助金の活用方法や事業を進めるうえでの課題、今後の取組の方向性などについて、さまざまな質問や意見が出され、活発な意見交換が行われた。実際に事業を運営する立場からの話を聞くことで、資料だけでは分からない現場の状況や課題についても知ることができ、有意義な機会となった。

続いて訪問した兵庫県庁では、海の環境改善に向けた取組について説明を受けた。特に、水質汚染や海の栄養不足（貧栄養化）による漁獲量の減少といった課題に対し、兵庫県が実施している対策事業について詳しく学んだ。
近年、宮崎県においても海の貧栄養化が課題となっており、藻場や干潟の減少、漁獲量の低下など、沿岸漁業を取り巻く環境は厳しさを増している。このような状況の中、兵庫県では海の環境改善に向けたさまざまな活動が実践され、実際に成果につながっている事例もあることから、宮崎県においても参考にできる取組が多く、大変勉強になった。

今回の視察を通じて、他県の先進的な取組を学ぶだけでなく、宮崎県の漁業が抱える課題を改めて考える機会にもなった。特に、海の環境変化に対応するためには、行政や漁業関係者が連携し、地域の実情に合った対策を継続していくことが重要であると感じた。
今回得られた知識や情報を今後の事業活動に活かし、補助金のより効果的な活用を図るとともに、漁業者の声を取り入れながら、新たな取組の検討・実施につなげていきたい。

Copyright © Miyazaki Prefectural Faderation of Co-Operatibe Associations. All rights reserved.